

小論文

以下の2問に答えなさい。

第1問

クリーンエネルギーと言われている風力発電は、デンマークをはじめとする欧米諸国においてすでにかなり導入されている。また、我が国においても、その建設が進みつつあり、近い将来に向けての大幅な導入計画が提案されている状況にある。

添付の資料は、風力発電施設の国立公園内立地に対するある景観研究者の主張である。論者は、「かけがえのなさ」を根拠に国立公園内の立地を避けるべきであると述べている。

一方、「かけがえのなさ」という点をとれば、地球環境を保全してこそその人類の生存であり、人間あってこそその自然景観であるという主張も成り立つ。

資料を読んだ上で、以下の問いに答えなさい。

(1) 風力発電推進派の立場に立って、この論説への反論を次の三つの視点から展開しなさい。

- ・自然の美しさ対人工景観の美しさ
- ・自然をむしろ引き立てる構造物の存在
- ・人間の美意識の時代による変化

(2) 双方の主張を踏まえて、この問題に現実的な解を見つけるためには、どのような方策を考えればよいのであろうか。論点を明確にした上で、方策を提案しなさい。

第2問

2004年6月7日、内閣府の富士山ハザードマップ検討委員会は、富士山の噴火を想定した防災対策をまとめた報告書を了承した。富士山は山体が大きく広域的な防災対策が必要であり、起こりうる噴火形態の想定等に関する課題も多く、地元自治体と国が連携してハザードマップの作成を進めてきたものである。

ハザードマップは最大規模だった1707年の宝永噴火と同規模の噴火を想定し、溶岩流や噴石、火山灰が及ぶ範囲を数値解析によって求めている。添付の表1は噴石や降灰によって発生する被害想定の結果であり、添付の図1は降灰の可能性マップである。また、富士山ハザードマップ検討委員会では、復旧・復興時の降灰の取扱いに関して下記の点を明記している。

「個々の地域で火山灰の処理が困難であるような大量の降灰があった場合に備え、速やかな復旧・復興のために、国・関係都県・市町村は、各々の役割分担を明確にし、火山灰の処理について広域的に検討しておくこと。」

表と図に示されたデータ、そして上記の点を考慮して以下の二点を論じなさい。

- 1) 推定された被害の特徴を簡潔に整理して述べなさい。
- 2) 合理的な防災対策案を提案しなさい。提案においては、対策の基本的方針、具体的な技術的・政策的方策、主体となる機関、の3項目に配慮して、その内容を簡潔に説明すること。